

三重県地方自治研究センター 2026年度定期総会開催



発行所
 三重県地方自治研究センター
 三重県津市栄町2丁目361番地
 (一階)三重県地方自治労働文化センター内
 TEL059-227-3298
 FAX059-227-3116
 E-mail : info@mie-jichiken.jp
 https://www.mie-jichiken.jp/

2026年6月5日(金)、三重県地方自治労働文化センターにおいて、2026年度三重県地方自治研究センター定期総会を開催しました。

はじめに、当センター田中理事長から「現在、日本の経済は、物価の上昇や深刻なエネルギー危機等による厳しい経済状況の中、地方自治体は人口減少・少子高齢化という大きな時代の波に翻弄され、様々な課題を抱えている。特に、地域産業振興、医療・福祉の充実、環境問題、防災・減災対策、老朽化したインフラの維持・更新など実問題の解決に迫られ、その問題に迅速・的確に、抜本的に解決していく必要がある。当センターでは、地方自治に携わる皆さんを、サポートするべく、喫緊の課題を調査・研究成果を発信していくため、最善の情報発信を



2026年度 役員体制	
理事長	田中 俊行 (前四日市市長)
副理事長	竹上 真人 (松阪市長)
"	水谷 俊郎 (東員町長)
"	柿沼 誠 (三重大学副理事・副学長)
"	小林 慶太郎 (四日市大学教授)
"	原田 貴文 (自治労三重県本部中央執行委員長)
専務理事(常勤)	藤森 久次 (自治労三重県本部特別執行委員)
理事	森 智広 (四日市市長)
"	末松 則子 (鈴鹿市長)
"	加藤 千速 (尾鷲市長)
"	三輪 一雅 (木曾岬町長)
"	諸岡 高幸 (菟野町長)
"	矢野 純男 (朝日町長)
"	城田 政幸 (川越町長)
"	筒井 尚之 (多気町長)
"	下村 由美子 (明和町長)
"	上瀬 裕美 (大台町長)
"	中川 泰成 (玉城町長)
"	中村 忠彦 (度会町長)
"	服部 吉人 (大紀町長)
"	上村 久仁 (南伊勢町長)
"	尾上 壽一 (紀北町長)
"	大畑 覚 (御浜町長)
"	向井 美樹也 (紀宝町長)
"	中瀬 古初美 (三重県議会議員)
"	岩脇 圭一 (津市議会議員)
"	小林 郁子 (自治労三重県本部副中央執行委員長)
"	長澤 和也 (三重県地方自治労働文化センター理事)
"	鳥羽 幸也 (三重県職員労働組合中央執行委員長)
監事	中村 進一 (フォーラム平和・三重幹事)
"	鹿海 文敏 (三重県職員労働組合副中央執行委員長)

努力を継続的に行っていく。また、新たな取組として、29市町の首長さんらと対談し、地域の課題や取組、成果、今後の展望を伺い、機関紙やHPで発信する。「理事長が聴く」シリーズを開始した。新たな取組も含め、当センターの充実、強化に向けて本日は貴重なご意見をいただきました」と挨拶。

続いて自治労三重県本部中央執行委員長の原田貴文様より、来賓を代表して祝辞とともに次のようなお話をいただきました。

「自治労における自治研活動とは、労働組合が主体的に、地方行政や自治体政策、公共サービスや自らの仕事のあり方について研究し、実践することと言われている。現在、自治体の最大の課題は人員不足であり、職場には全く余裕がなく、通常業務をこなすだけで、ギリギリの状況で、自治研活動のみならず、組合運動そのものを行う時間がないという声も聞く。ただ、そういう状況改善するためにも、自治研活動により業務の見直しを進めるべきである。」

総会の進行として、議長に桑名市職員組合執行委員長の加藤氏が選出

され、会員総数125名(団体・個人会員)中、当日出席者数32名、委任状42名、計74名により本総会の成立が確認されました。

議事内容として、事務局より報告提案が行われ、2026年度事業報告・会計決算報告・会計監査報告が確認されました。事業報告では、調査研究活動として、「人口減少時代における地方自治体の人材確保と定着研究会」や「地域における多文化共生の推進に関する研究」「移動窓口導入に関する実態調査」の報告等を行いました。

続いて、第1号議案2026年度活動方針(案)、第2号議案2026年度予算(案)の提案が確認されました。続いて、第3号議案の役員改選(案)の提案が満場一致で承認されました。活動方針(案)では、「2026年度の調査研究活動として、老朽化ライブラインの更新、やりがいのある働き方等のテーマについて取り組んでいく方針です。」

なお、本総会後に「政策が伝わる自治体広報」をテーマに記念講演会を開催しました。詳細については、来月号にてお伝えします。

理事長が聴く 第三回対談
菰野町長 諸岡高幸氏
 対談日 2026年5月1日

当センターの理事長が県内各地の首長や注目を集める人物と「地方自治」の様々なテーマについて対談を行うシリーズ「理事長が聴く」。

今回は鈴鹿山脈の麓に広がる、自然が豊かで、温泉や登山が楽しめるまち、菰野町長の諸岡高幸氏との対談を抜粋してお届けします。

(田中俊行 三重県地方自治研究センター理事長 以下「理事長」)

これから菰野町についてお伺いする前提として、諸岡町長が考える菰野町の魅力についてお聞かせいただけますか。

(諸岡高幸 菰野町長 以下「町長」)

ご存じの通り、菰野町には鈴鹿山脈があつて、その自然と水と緑が魅力です。御在所ロープウェイが昭和34年に開業し、その景観の中で観光の町として湯の山温泉街が活性化してきました。これから人口減少していく中で、どこの市町もどのように活性化していったらいいかと模索していく中で、先ほど申し上げた菰野町ならではの魅力を前面に出していくという事になると思っております。菰野町は、湯の山温泉を中心とした、その大きなロケーションの中で、観光地の強みをしっかりと活かしていきたい時代だからこそ、繋がりと連携を大事にし、各産業が繋がって



菰野町 諸岡高幸町長

くような仕組みづくりをし、観光の町として魅力を発信していきたいと考えています。

1. 湯の山温泉のさらなる活性化に向けた取組について

(理事長)

自然を生かした中で、湯の山温泉という観光地を中心として、総合的に魅力を組み合わせ、各産業が繋がっていくような仕組みづくりをしていくということですね。

その最大のポイントである観光の町としての魅力発信という観点から、湯の山温泉の現状と、活性化に向けた取組の中で特に印象に残っている取組や成果をお聞かせいただけますか。

(町長)

菰野町の湯の山温泉は開湯1300年という歴史がある中で、山岳信仰、湯治文化で栄えてきました。高度経済成長期には現在のような家族や友人などの少人数でというよりは、会社などの団体で来られる場所というような感じで、湯の山温泉も栄えてきたのですが、旅行スタイルが変わってきたことや、活動範囲が広がったことで、湯の山温泉街に宿泊していただく方が減ってきています。ご存じのように、営業を行っていないホテルや、旅館が点在しており、これらをどうするかを考えております。四季折々の魅力を生かすうえで、御在所ロープウェイを含

め、湯の山温泉を中心とした活性化をどのように進めていこうかと考えております。

具体的な取組の一つ目としては、インバウンドに力を入れたいと考えており、昨年、大阪にある台北駐大阪経済文化弁事処に出向き、総領事の方とも会わせていただきました。台湾は親日派の方も多く、また、雪を見たことがない方も多いため、御在所スキー場にも沢山来ていただいているようです。なので、そういったことも含めて、交流することによって菰野町へも泊まっていただくことができるのではないかと考えています。

二つ目として、本町が誇る湯の山温泉の魅力として、ラドン効果について発信していきたいと考えています。これまで様々な調査を進めてきた結果、鈴鹿花崗岩(白い石)に含まれるラジウムから放出される放射線が、地下水に溶け込み、自噴する源泉を通じて地上へと運ばれていることが分かっています。この源泉から高濃度のラドンが空気中に拡散し、川の流れに沿って山際へと滞留しているのです。こうした環境から、私は「菰野の空気は健康食品」であると確信しています。今後、豊かな森林浴とラドン浴を組み合わせたことで、皆様の心身の健康をより一層サポートできるような取り組みをまいります。元々湯治文化で発展してきた町なので、温泉を中心とした中で、町の皆さんと協力しながら活性化していくのがいいだろうと考えています。温泉を中心とした中でラドンを活用して健康と癒しの空間づくりができるかと思っています。

(理事長)

源泉と森林浴とラドン浴というのは、ごく斬新な発想ですね。観光の町としての活性化については、高校や大学との包括的連携をさしていることですが、成果などについてお伺いします。

(町長)

平成26年に名古屋外国語大学との包括連携協定、令和4年に四日市大学、令和5年に東海学園大学との包括連携協定を結んでいます。ただ、連携協定を結ぶ前から、学生の皆さんから菰野町の観光の活性化について色々な提案をしていただいております。現在ですと観光ポスターのキャッチフレーズを考えたいただいております。そして、その中から8作まで絞り込んだ後、公共施設などに配置して町民の皆さんに投票していただいて、一番投票数の多かったものがその年の観光ポスターとなっています。

この活動は十数年間続いているのですが、私たちではなかなか思いつかないニュアンスのキャッチフレーズで、とても面白い発想をいただいております。他には、学生さんたちにグループ毎でプロモーションビデオを作ってもらったこともありました。

(理事長)

四日市商業高校の生徒が菰野町の活性化について提案したということも耳にしたことがあるのですが。

(町長)

四日市商業高校の生徒が「ちゃいろがーるず」という名前で、実際にホテルや女将の会とも協力して菰野町の地域活性化を目指して活動してくれました。その「ちゃいろがーるず」に参加していた生徒のうち、そのまま鹿の湯ホテルに就職した子もいるようです。

(理事長)

最近そういう学生がフィールドワークで勉強するというのがすごく増えていますね。やはり地域との繋がりが大事という考え方が浸透してきたんでしようね。

(町長)

そうですね。町民盆踊り大会と燈火祭りというイベントがあり、三滝川沿いでランタンを浮かべるのです

クシーに乗ると、乗り換えせずに一本で行きたいという方も多くいらっしゃると思いますので、デマンドタクシーの利用がひっ迫するようない時間もあると思います。乗り合い乗り換えも含め、利用していただけるような取組を考えているところです。

4. 菰野町の地域資源としての特産品のマコモの活用

(理事長)

観光に関連して、地域資源としての特産品のマコモの活用について、今どんな状況でしょうか。

菰野町がマコモを利用するのに特化してやらせていただいているのは、葉っぱを粉にして使うというものです。普通はマコモダケといつて、マコモの根元の部分に黒穂菌を入れて膨らんだ部分を食べるのが中心だと思のですが、菰野町では食の関係よりも健康食品としての観点から葉を使っています。抗菌作用もありますし、すごく栄養価も高いということですが、皆さんに普及したいという強い志の方がみえました。元々役場の職員が電子レンジでチンして乾かして粉にするなどの研究をしていたのですが、細かい粉末から飴を作ったり、お饅頭に入れたりして発信しています。農薬は使っていないし、除草も全部手作業で、随分手間がかかるということ、生産者も高齢化してきて、後継ぎをどうするかという課題もあります。生産者の募集をかけたところ、現在数名集まっています。マコモの会と一緒に生産をしてくれるような話が進みつつあります。最初は手取り足取りでちゃんと覚えていただけて、それから自分たちで独立していただけるような形にしていかなければ、特産品として出てきたマコモが廃れてしまふといけませんからね。マコモの生産者の皆さんに頑張ってもらいたいと考えています。

先日、ちよūd農福連携で町内の作業所と社会福祉協議会と、菰野町の健康福祉課と観光産業課と合同でマコモの田植えをしたところです。

(理事長) マコモも稲のように田植えをするんですか？

(町長)

同じです。マコモは田植えから刈り取りまで全て手作業なんです。機械ではできないです。だから高齢者の人たちも大変で、本当に手数がいるんです。

葉っぱから粉にしてその粉を使って飴にすると、消炎作用があるのですね。喉を痛めた時にもいいと言われています。道の駅でも売っていますし、葉を使うことによって色々な加工品ができています。

(理事長)

マコモダケもありますが、菰野町の特徴としては、マコモの葉っぱを使って加工品を作っているということですね。

(町長)

ホテルや旅館では空気を浄化させるといふことで、壁に掛けてもらったりしているとききます。また、新たな取組として、マコモダケを冷凍保存する方法を開発中とのことで、秋にしか食べられなかったものが、年中市場に出回るようになるかもしれないとのことです。冷凍すると味が劣化するとのことでしたが、味が劣化しない冷凍の方法を研究しているとのことですね。

(理事長)

なるほど。そういう研究もされているんですね。

(町長)

菰野町のブランド品を広げようと、地域の人たちが集まって所々で新たな取組が始まってきているようです。ここのエゴマ普及会や、そば、蜂蜜を作っている会などもあり、地域を盛り上げてもらっているのが心強いですね。

強いですね。

5. 令和8年度事業の重点取組について

(理事長)

菰野町70周年ということで、令和8年度の事業の中で特色のある取組を教えてくださいませんか？

(町長)

令和8年度に新たに取組んでいることとしては、「いなべ市菰野町清掃事務組合」を設立し、広域ごみ処理施設の整備を進めることです。また、小中学校給食センターを整備し、令和11年から稼働できるように進めています。その他には、子ども医療費の窓口無料化の対象年齢の引き上げやDXを活用した業務効率化など、未来へ繋がる持続可能なまちづくりを強く推進してまいります。

6. 菰野町の新たな取組

(理事長)

最後に、菰野町は、電話や窓口対応に「AIさくらさん」を導入されたこと、ご当地カプセルトイ「街ガチャ in 菰野町」で町の魅力を詰



め込んだキーホルダーを販売するなど、色々な取組をされていますね。

(町長)

令和6年度に、いなべ市との定住自立圏形成協定を結び、名古屋市や四日市市などの町外から地域活性化起業者の方々に来ていただけて、町職員とタッグを組んで「AIさくらさん」や「街ガチャ」などの新たな取組を企画いたしました。「AIさくらさん」につきましては、すでに活躍していただいています。現在も少しずつ経験を重ね、より適切な対応が行えるように学習しています。「街ガチャ」につきましては、予想以上の反響をいただいています。当初2,000個準備したものがすぐになくなり、4,000個の追加発注をいたしました。聞いた話ですが、湯の山温泉の仲居さんの方が購入されて栓抜きなどにつけてくださっているみたいで、大好評のようです。

(理事長)

町長自らもキーホルダーになっているとのこと、菰野町のPRに絶大な効果があるようですね。



おわりに

今回は菰野町長との対談をお届けいたしました。対談の全文については当センターホームページに掲載いたしますので、こちらもご覧ください。



自治研センター